



さくら

2017新春

発行
社会福祉法人 東桜会
第54号

〒420-0962
静岡県葵区東 527 番地の 1
特別養護老人ホーム 麻機園
TEL 054(247)8739
FAX 054(247)8640



今年も

どうぞよろしく申し上げます！

麻機園のお正月

今年も元旦に新年の集いを行いました。

お正月に合わせて、鏡餅や羽子板や凧などを飾り、お琴の曲を流しました。入所者が書いた「あけましておめでとう」の毛筆の書を各フロアに張りだしたり、お正月の雰囲気盛り上げるため職員も着物を着て入所者とお正月を過ごしました。

園長の新年の挨拶の後、皆さんでお屠蘇を頂き新年をお祝いしました。普段あまり飲む事の無いお屠蘇ですがお屠蘇を飲み「口当たりが良くて飲みやすい味だね。」と言った感想が聞かれたり、静かにお酒の味を味わっている方がいたり身が引き締まる雰囲気も感じました。厳粛な雰囲気も打ち解けてくると、入所者同士で改めて新年の挨拶をしたり、「昔は私も羽子板をやったもんだよ。」と昔を思い出して話をしたりとおしゃべりの花が咲きました。そうした中で着物の職員を見て「素敵だね」「お正月らしくていいね」と目を細めたり、何枚も練習をして書き上げた自分達の書き初めを見て、「なんだか照れるね」「みんな上手だね」と感心して談笑し、お正月を味わっていました。入所者の方からは「去年も健康に過ごせて良かったね。来年もまた皆で集まりたいね。」と言った声も聞かれました。来年も、初笑いをして福を呼び込みましょう。



麻機園 寮母 小林麻衣

イロ酉ドリなお正月



初日の出のまぶしい日差しがそそぎこむ元旦、ケアハウス桜花も新しい年を迎えました。

「あけましておめでとうございます」と声をかけあい、お雑煮とおせち料理の朝食が始まり、今年は施設長がお祝いのお酒を振る舞いに回り始めると「おめでたいから」と少しでしたがお酒を召し上がっていました。お餅が消化されてきた昼過ぎに、毎年恒例の新春の集いを行いました。まずは正月と言えは「かるたとり」。椅子に座って近くにある札を見ていましたが、一人の方が離れた所にある札を見ようと立ち上がったところ、私も、私もといつのまにか全員起立！札が並んだテーブルを囲み白熱な戦いの場となってしまいました。熱が冷めきれないまま次はトランプ

で”ババ抜き“をしようと準備したところ、「ババじゃない方がいいね」「そうだね、ジジだね」との声。というわけで“ジジ抜き”を開催！10人で行うジジ抜きはなかなか終わりません、同じ数字のカードはどこにあるやら。熱戦のゲームが終わったあとは、仲良く？お菓子を囲んでお茶にしました。子供の頃の話、昨晚の紅白歌合戦の話、独身の男性職員の話・・・お茶を飲みながら、そして笑いながら会話がはずみました。風ひとつない穏やかな天気「よいお正月だね」との声が聞かれました。皆さま、風邪ひとつない健康な年でありますように。よい年にしましょう。

ケアハウス桜花 生活相談員 佐藤勝洋

デイサービス通信 ~ 我らの人生これからだ ~

初詣

新年、あけましておめでとうございます。『運氣もお客もとりこめて、縁起のよい年』といわれる酉年になりました。明るく楽しい一年になるといいですね。

デイサービスでは、幸せを願い利用者の皆さんと護国神社に初詣に出かけました。護国神社にお参りするの、みなさん久しぶりのようでした。「初詣できて、今年はいい年になりそう。」「なかなか来たくても来られなかったから、うれしいよ。」「ここに兄さんがねむっている。お参りできて良かった」「暖かくてよかったよ」「最近寒くて外に行かなかったから、久しぶりに外を歩いて気持ちいいね」と、皆さんに喜んでいただきました。

今年一年、デイサービスで楽しく元気に過ごして頂けるように、さまざまな行事を計画していきます。



お正月遊び

昔懐かしい、福笑いや双六を楽しみました。

福笑いでは、手ぬぐいで目隠しをした利用者が、目や鼻等のパーツを手に取り、勘を頼りにおかめやひょっとこの顔をつくります。周りの利用者からは盛んに「もう少し上・右」などの声援が飛び交いました。目隠しをとり、完成した顔を見て、皆で大笑いの初笑いでした。

また双方は、サイコロの目が出るたびに一喜一憂し、一番に上がった利用者は「今年は良いことたくさんありそう」と笑っていました。

麻機園デイサービス 生活相談員 望月昭子

四年経って思うこと

西島千代子

私はこの仕事に就く前は事務職で約三十年過ごしました。在庫管理、受発注、取引先とのやりとり、経理等様々なことをやってきました。一番大変だったのは取引先とのやり取りでした。失礼の無い様に気配りし、相手の考えていること、思いを話の中から読み取り、時にはこちらには心当たりの無い事で苦情があり、対応を任されていました。

五十歳の頃、父の介護が必要となり、仕事を辞め介護に専念しました。「介護」に関して何の知識もない状態での父の介護は想像以上に大変でした。移乗のコツが分からず力任せに移乗しようとして、重さに耐えられず抱えた父を床に落とすことになったり、オムツを取り替えるのもどうしていいのかわからず、しかも誰に聞いていいかも分からず一人で悩んだり、苦勞しました。毎日病院で付きっきりの介護を行う自分の身体にも負担は積み重なっていきました。悩みながらの父の介護が続きました。今麻機園で介護の仕事に就き当手を振り返れば、もっと余裕をもって介護が出来たのではと感じました。

父の介護が終わり再就職を考え始めた時に、介護の仕事が候補に上がりヘルパー二級の資格を取得しましたが、麻機園の面接で「働きたい」との意思を強く伝えて、晴れて採用となりました。ヘルパー二級の資格を取得したとはいえ、介護の現場は初めてで、右も左も解らず役に立ちたいという自分の思いとは裏腹にその場に立ち尽くす自分がいました。先輩からは「何をしているの?」と言われ、最初の頃は指導される事も多々ありましたが、今ではその事も自分が何も出来なかったのだと判るようになりました。四年が経ち周りのことも見えるようになってきました。御利用者が考えている事、思いを読み取り、御家族の事も考えて介護をしていきたいと思えます。働くことの厳しさ、楽しさ、色々ありますが、自分の体力気力が続く限り、生涯現役で頑張りたいと思っています。